

大阪新聞錦画号

武知小太夫村の平左門とよとの常い
 降ゆ云ふ若年 死多々 婿と二人を並せ
 を取かともいふと定まらぬ 嫁も多々い
 曾禮、棺の前までして見れと云ふ 明治八年
 月として平左門の頭死せし 彼の遺言を
 信し急ぐ 近辺由を門が破を仲人を以て 貫井諸
 野達との日、棺の前花婿入込み 飲ひや悔
 やら高砂合佛のついでを 贈物事やられを
 有る物世小云ふ 泣笑ひの 放言宜あつた 遺言
 も考へて云ねと 難義あつた 出来事
 續賣百一号し 出たり

々々花堂誌



小作
 難義
 伝
 壺

カトラ
 守
 守
 守